

○ダントリウムカプセル [内], ○ダントリウム静注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】ダントロレンナトリウム (U) Dantrolene 【分類】痙性麻痺緩解剤/悪性高熱症治療剤

【単位】○25mg・▼50mg/Cap, ○20mg/V

【常用量】■痙性麻痺, 全身こむら返り病: 25mg/日から開始, 1週毎に25mgずつ増量し最大150mg/日

■悪性症候群: 初回40mgを静注し, 改善が認められない場合には20mgずつ追加投与 [最大200mg/日で7日間以内]. 以後の継続投与が経口剤で可能な場合は1回25~50mgを1日3回

■麻酔時における悪性高熱症: 初回1mg/kg静注し, 改善のない場合は1mg/kgずつ追加投与 [最大7mg/kg]

【用法】■経口: 1日1回から開始し, 1日2~3回に分割

■注: 注射用水に溶解して静注

【透析患者への投与方法】腎排せ性の薬物ではないため減量の必要はないと思われる (5)

【保存期CKD患者への投与方法】腎排せ性の薬物ではないため減量の必要はないと思われる (5)

【その他の報告】排泄が遅延するおそれがあるため慎重投与 (1)

【特徴】筋小胞体に作用する末梢性筋弛緩剤。筋小胞体から筋形質細胞内へのCaの流出を抑制することにより、形質内のCa増加を防ぎ、骨格筋代謝亢進を緩解する。筋肉の過剰のエネルギーが体温を上げるため、筋肉の収縮を抑制する目的に用いられる。

【注射】吸入麻酔中の悪性高熱の原因の一つとして考えられている筋原性脱に基づき、骨格筋形質内のCaイオンに関与し、筋肉内Ca異常を改善し、高体温、頻脈、アシドーシス、筋強直等の臨床症状を改善する。

【主な副作用・毒性】大量投与で肝障害, 眠気, 錯乱, 痙攣, 嘔吐, 呼吸困難, 排尿障害, PIE症候群, 胸膜炎など

【モニターすべき項目】赤血球数, 腎機能, 肝機能

【吸収】80% (11) 70% (1)

【tmax】5hr (U) 4~5hr (1)

【代謝】肝代謝 (おそらく肝ミクロソーム酵素) (U) 肝代謝にはCYP1A1, 1A2, 3Aが関与し, 主代謝物は5-ヒドロキシダントロレンとアセチルアミノダントロレンで活性はない (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率1~1.4% [po, 24hrまで] 1.2% [iv, 72hrまで] (1) 尿中回収率51.6% [iv, 72hrまで] (1) 尿中回収物おほとんど代謝物 [主として5-ヒドロキシダントロレンとして14%程度] (1) 腎 (腸) で代謝物として排泄, 少量は未変化体も排泄される (U) 胆汁中に45~50%排泄 (1)

【非腎CL/総CL】95% (10)

【t1/2】9hr (10) 平均8.7hr [4~24hr] (U,11) 6~7hr (1)

【蛋白結合率】96% (1) 80~90% (11)

【Vd】1.2L/kg以下 (11) 脳への移行はわずか (1)

【MW】399.29

【透析性】除去されない (1) 蛋白結合率が高いため透析では除去されにくい (5)

【TDMのポイント】TDMの対象にならない

【pKa】6.6 (1) 7.5 (11) 【O/W係数】資料なし (1)

【効果発現時間】1週間以上 (筋攣縮)

【更新日】20210527

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。